

基調講演

前軍縮会議日本政府代表部特命全権大使 猪口邦子 上智大学法学部教授

演題：「希望への道筋をみんなで探していこう」

開会式に引き続き、猪口邦子さんの基調講演がありました。軍縮大使として国際舞台で活躍された経験などをふまえ、国際的な取り決めを作り、それを実行に移していく流れを詳しく説明してくださいました。また、次代を担う子どもたちが将来大人からバトンを引き継ぎ、平和な世界を構築していく上での心構えや、そのために今から身につけておくべき力について教えてくださいました。



●意欲あるところが物事を変えていく中心

グローバル化（国際化）の時代、世界中でいろいろな取り組みがなされています。国際会議の場での議論や方針を受けて、具体的に人々の生活を変えるためには、グローバルなこと（世界的な取り決め）とローカルなこと（地域レベルの取り組み）がセットにならなければなりません。国際的な広範囲の取り決めがなされる時代だからこそ、一層ローカルなところで自分の問題としてきちんと取り組んでいくということが重要です。まさに、「日本の子どもたちが次の世代として、この問題を自分のものとしてとらえ、取り組んでいる」ということを、大変心強く思いました。

●「イマジネーション（想像）」と「キャパシティ・ビルディング（能力向上）」を！

イマジネーション 人間は具体的に自分が経験したことにこだわりすぎています。想像力をはたらかせて、自分の経験していない世界の問題に思いを馳せることが大事です。私たちは何よりもサバイバーの生きる姿を見て、その声を聞くことによって自分たちの本質的な能力のなさを打破し、様々な役割の中で積極的な貢献ができる人になっていくのです。地雷のサバイバーのみなさんには、私たちの能力のなさを補う助けとなってほしいと思います。

キャパシティ・ビルディング みなさんは子どものうちにあらゆることを吸収して、自分の能力を高めていってください。例えば、世界でコミュニケーションをするときには、自分の国の言葉だけでなく、英語やいくつかの言葉を知っていれば、文化の間を越境することができます。初めて知る世界がそこに開けますから、若いうちにぜひ語学を勉強してください。一方で、日本語で言えないことは、英語で言えるはずがありません。自国語で自分の考えていることを論理立てて説明する能力を身につけることも重要です。

●人を助ける＝「ネットワークに接続」してあげる

人を助けるというとき、食料や医薬品などを提供することが最初には必要かもしれませんが。しかしもっと深く考えると、「ネットワークに接続してあげる」という努力が重要です。ネットワークとは「情報」、「人」、そして「機会（オポチュニティー）」です。この3つと接続がはずれたところから貧困、剥奪、抑圧、そして戦争といった問題が起こりやすいのです。

●サバイバーのあり方

日本は唯一の原爆の被爆国ですから、今の日本に生きる私たちも大量破壊兵器のサバイバーです。日本は国際的なルールを作る上でのリーダーとなり、サバイバーがどのように世界に貢献できるのかを示しています。次の時代のリーダーになるというのも、サバイバーの生き方です。地雷のサバイバーのみなさんには「自分たちこそがリーダーになれるのだ。」とあってほしいです。

●世代を越えた継続性

軍縮の問題というのはものすごく大きく深いものですから、あと10年や20年やったところで問題は解決しないと思います。一人の大使でも、一つの世代でもできないとなれば、それが年々と続いてみなさんの世代に継承されなくてはなりません。引き継いでいこうと思ったら、それぞれの人が自分で行動することが重要です。みなさんはまず、自分が何において長けているのかを見極め、若いときだからこそ、それぞれの場面で自分の能力を磨く習慣をつけてください。そして、教育を受けたり、進学希望をもったりする機会がなかった人たちのことを十分にイマジン（想像）して、自分の社会的な責任を考えてください。その責任とはまず、自分を大切にすること、自分自身が生き延び、能力を高めていくということです。

●「軍縮」と「和解のプロセス」が永久平和を導く

大人の責任として、「戦争をなくす」というのが非常に重要なポイントです。戦争がなぜ繰り返されるのかというと、それは「終わらせ方が悪い」からです。「軍縮」と「和解のプロセス」の二つが整うと、戦争は再発しないと私は思います。

軍縮 人は暴力によって簡単に解決できるのではないかという方に流れていきやすいので、生活空間に小型武器が蔓延していると、非暴力的に問題を解決していくことが難しくなります。何か問題が起きたときに「何としても非暴力的にそれを解決するのだ」という勢いになりにくい場合がありますから、非合法に散乱し、辺りに蓄積している小型武器を全部回収、破壊しなければなりません。

和解のプロセス 今日の戦争は民族対立、宗教対立といった長い深い憎悪の念がコミュニティにまで沈殿している「根の深い戦争」です。これを解決するには、「和解のプロセス」を立ち上げる、和解に導いていくことが必要です。許す気持ちというのは、お互いが完全に真実を認めたときに生まれます。だから、どんなに辛くてもまず「真実」を見つめるということが根本的なスタートとなります。

すべてのスタートラインは、自分が経験している小さな世界を越えて、きちっと想像する力をつけることだと思います。みなさんも、自分の考えたこと、感じたことをきっかけに、見たことも、聞いたこともないことについて想像力を広げて、その時代に対応できるだけの自我を築く努力をしてください。